

「日本の美」総合プロジェクト懇談会（第1回） 議 事 要 旨

○日 時：平成27年10月13日（火）14：30～15：47

○場 所：官邸2階小ホール

○出席者：津川座長、内永委員、串田委員、幸田委員、小林委員、千委員、林委員、
森口委員

○政 府：安倍内閣総理大臣、馳文部科学大臣、世耕内閣官房副長官、
河井総理大臣補佐官

（司会：世耕内閣官房副長官）

1. 開会・総理大臣挨拶

冒頭、安倍総理大臣より、以下のとおり挨拶があった。

我が国は、仏像など日本古来の芸術、歌舞伎などの伝統芸能や伝統工芸、和食や茶道など、世界に誇る文化芸術がある。また、近年では、日本の映画やアニメーションが世界で高く評価されている。

津川座長からは、日本の文化芸術について、すばらしさを世界に知ってもらい、外交に生かしていくべきではないかという話をたびたび伺ってきた。

文化芸術は我が国のソフトパワーの根幹である。我が国が国際社会で存在感を高めていくため、日本の文化芸術の魅力を発信する文化外交をより積極的に展開していくことが必要である。

このたび、我が国の文化芸術に深くかかわる皆様にお集まりいただき、文化芸術の振興と次世代への保存継承、国内外へアピールするための方策について御議論いただくこととした。委員の皆様方には、それぞれの御専門の立場から忌憚のない御意見を賜りたい。

（報道関係者退室）

2. 座長挨拶

次に、津川座長より、以下のとおり挨拶があった。

「日本の美」は、縄文時代から始まっている。縄文の大自然の中で、生きとし生けるもの全てに命が宿り、神が宿るといふ自然を愛する心が、1万6,000年を経て今日にまで至っているものだと考えている。例えば、東日本大震災の被災者の方々が、被災された立場であるにもかかわらず、「我慢」「忍耐」「礼節」といふ美しい心を見せていただいたことが、何よりの証拠ではないか。

富士山が世界文化遺産になった。これが「自然遺産」ではなく「文化遺産」にな

ったところにすばらしさがある。また、聖地であるとともに、日本文化発祥の源であるという但し書きもついている。「日本の美」が、何より自然を愛する心から発していることが世界に証明されたことだと思う。

この懇談会における自分の望みは、「文化大国日本」にすることに御賛同いただきたいということ。そのためには、第一に、予算の増額。フランスでは、2012年で国家予算の1.1%。韓国でも0.87%。中国は0.25%ある。ところが、日本は0.11%と、フランスの10分の1という状態である。これを、できればフランス並みの国家予算にするという目標を持ちたい。すると、文化庁を文化省に格上げし、器も一緒に大きくする必要がある。難しい注文であるが、この二つを、座長として挙げさせていただきたい。

3. 委員紹介

次に、世耕内閣官房副長官より、各委員の紹介があった。

4. 懇談会の趣旨等について

次に、資料1-2に基づき、事務局から懇談会の趣旨及びスケジュールについて説明があった。

5. 議事

(1) 懇談会運営要領（案）について

次に、資料2に基づき、事務局から「日本の美」総合プロジェクト懇談会運営要領（案）について説明があり、（案）のとおり承認された。

(2) 各省関連施策について

次に、資料3に基づき、有松文化庁次長から文化庁関連施策について説明があった。

続いて、資料4に基づき、新美外務省国際文化交流審議官から外務省関連施策について説明があった。

(3) 意見交換

次に、意見交換が行われた。各委員の主な発言は以下のとおり。

【津川座長】

- 世界における日本の存在感を高めることは、日本の国益に直結する。日本文化には、当面、外交で大いに活躍してもらう必要がある。外国で脚光を浴びれば、国内においても認識を新たにされるので、一石二鳥だと思う。
- 先日、安倍首相が招待したコロンビア大学の学生50名が、ニューヨークにある日本の総領事館で報告会をした。学生たちは、日本の清潔感、日本人の繊細さ、優しさなどに大変感動し、「もう一度日本に行きたい」「行ったら学びたいのは文化だ」と言っていたとのこと。こういうことが、日本文化を外交に活用することの一番大切な要素だと思っている。この50名が、将来において、力強い日本の友達になってくれることは間違いない。
- まず、その第一歩として、誇るべき日本文化を一堂に集めた「日本博」を世界の主要都市において開催したい。「日本博」とは、世界最古の縄文土器を初め、仏像、

浮世絵、美術、伝統ある漆器、陶器、磁器の工芸、着物、盆栽、そして、縄文のアニミズムの信仰から鳥獣戯画を経て北斎漫画、アニメーションに至るまでの歴史的展示を行う。アニメーションというのは突発的に出てきたものではなくて、日本の自然を愛する心から出てきて、それが鳥獣戯画になり、北斎漫画になったということをしちんと展示する必要があると思う。

- また、日本独特の食文化が出展されるレストランコーナー、茶室での茶の湯の振る舞いや陶器づくりの体験コーナー、日本庭園の造成、さらに、芝居小屋をつくり、歌舞伎、文楽、能、狂言等々の上演を行う。広場での流鏝馬の実演、和紙づくりの実演、日本が誇る美術の修復技術の実演を行う。現地の修復技術を持っている人と一緒に修復技術を見せ合えらるとおもしろくなるのではないかな。
- 「日本博」には、開催地における日本びいきの有志たちが必要。この方々を主催者にして、彼らのリードによって「日本博」を行うシステムは欠かせない。
- 第二に、日本映画の世界市場開拓をしたい。そのためには、まず、日本国内でも、時代劇の復興を目指すことが必要。時代劇は、世界に異国情緒と夢を提供できる最高のエンターテインメントだと思う。日本も韓国同様、国から制作費の半額を助成していただくことが必要だと思う。海外の方が日本映画を見て、日本を格好いいと思う感覚への貢献だと御理解いただきたい。そして、その第一作目として、例えば、「天孫降臨」などをアニメでつくるなどしてはどうか。
- アメリカは多種の民族の集まりであることから、字や言葉に頼らず、映像だけでおもしろく見せるというノウハウが発達した。そのノウハウが世界を席卷し、世界にハリウッド映画やアメリカ人が格好いいと思わせた。日本映画の世界市場を獲得するために、ハリウッド映画を徹底的に解明する研究部をつくることも必要だと思う。
- 映画は億という資本がかかる。これを回収するために、ヒットさせて資本家の人たちに損をさせないことが、娯楽映画発展のやり方だと言われている。どうしても、監督やプロデューサー、脚本家の思考が賞を取れるような芸術ものについてしまい、賞をもらって自分が満足するパターンがはびこっている。その中で、日本の娯楽映画のレベルが落ちてしまっている。これは嘆かわしいこと。日本文化を格好いいと世界の大衆に浸透させるために、アニメに続いて、時代劇という娯楽映画のパワーを使うべきだと切に思う。
- まずは、この2つに重点をおいて、「日本の美」総合プロジェクトの具体化の第一歩を踏み出してはどうか。
- 最後に、安倍首相に文化宰相としてイメージアップをしていただくため、年に1回でも2回でも、世界の文化人を集めての薪能の開催などしてはどうか。以上、3項目を今回の「日本の美」総合プロジェクトの提案とさせていただきます。

【串田委員】

- 私は、終戦が3歳の誕生日ぐらいの年代で、欧米の文化は優れていると教わり、むしろ日本文化には余り目を向けられないような雰囲気であった。その後、私は演劇の世界に行ったが、西洋のものを見て「そうだそうだ」と思いながら、若いうちは、日本の古典には「ださい」という思いがどこかあった。
- しかし、20年ほど前に歌舞伎の演出をするようになり、東急Bunkamuraのシアターコクーンでコクーン歌舞伎というものを始めることになった。そのときに、自分はおよそ歌舞伎の世界から離れたところにいると思いながら、その稽古場に初めて行ってみんなと顔を合わせたときに、「あれ、知っている」「何かわかる」という、

理屈ではない、何か血の中でわわっと騒いだものがあった。つまり、文化というものは、観念的なものではなく、遺伝子とか、血の中で思うものなのではないか。

- もう一つは、外国の人に、日本文化を知らせようとする一方、日本人同士が、本当にそれを知っているのだろうかということ。外国人が日本に来て、知識は彼らのほうが持っていることもたくさんある。でも、何だかわからないある感じというものがある。それが文化の一番大事なこと。
- そうすると、日本人同士や若い世代が、それを一緒になって感じるというチャンスをもっとつくりたいといけな。コクーン歌舞伎も、お客さんが来て支持されなければ消滅してしまう。これは単に、商業的な意味ではなくて、大事な面があると思う。人が支持するところに、文化の大きな根源があるのではないか。
- 時代劇も、例えば若者に「おもしろい」「いいな」と思ってもらわなければいけない。ただ衣装が時代劇になっただけ、ただ扮装が変わるだけ、何となくまげを結ったり日本刀を使ったりしているだけ、ではなく、もっと日本人が奥のほうから、「これ、わかる」「この感じが俺たちなんだ」というものがあることが大事ではないか。

【内永委員】

- グローバル化が進む中で、「日本の美」という切り口の中で、日本人の価値観や歴史観、美意識、伝統などをきっちりと身につけることは大事なことだと思う。
- ただ、日本人が、これらをしっかり語れるかというとなかなかうまく語れない。そこで、宣教師が、それぞれの国の生活の中に入ってキリスト教を広めたように、文化においても、草の根の中での普及活動を行う宣教師的なエバンジェリストの仕組みを考えてみてはどうか。等級を幾つか決め、ある程度認定するなど、見える化する。
- 日本博は面白いし、映画はすばらしいと思うが、今、これだけインターネット等が普及する中で、映画というよりはコンテンツという観点で捉え、支援することも一つの方法ではないか。

【千委員】

- 文化芸術の分野は広く、茶道にしても、長い歴史と茶という飲み物を中心にした総合文化であり、大きな総合文化力である。茶道というものを特殊なもの日本人はすぐ考えてしまうが、そうではなく、もっと幅広い歴史的な総合文化として今、海外で非常に大きく取り上げられている。
- 日本文化を紹介していくためには語学力が必要。残念ながら、日本人の語学力は非常に弱い。この間、日中韓のユースフォーラムを行ったが、いつも感じるのは、日本の学生の語学力が弱いこと。それに対し、中国、韓国の学生の英語力はすごい。日本人の若い人たちを留学させる制度をもう少し大きく広げる必要がある。2020年のオリンピック・パラリンピックにも関係してくるが、文化によっておもてなしするためにも、しっかりと準備をしていかなければいけない。
- 懇談会の回数について、これだけの大きなプロジェクトを4回でまとめることは無理だと思う。少し時間をかけて、私たちの意見だけではなくて、地方でも公開的に懇談会を広げて、国民の意見をどんどん取り入れる必要がある。もう少し内容を高めるためにも、実際には広くサポートしていただくためにも、一般の方の意見も聞いてはどうか。

【小林委員】

- 私は、大学で日本の美術史を教えていたが、学生には、「日本は、人の手から人の手に文化財が守り伝えられたほとんど世界で唯一の国ではないか、6世紀ごろからの作品が、人の手から人の手に伝えられるなど、誇るべき文化伝統があるのだ」ということを言ってきた。
- 一番感じたのは、高校時代までに、日本文化の伝承をほとんど学校教育の中で行っていないということ。雪舟や尾形光琳の名前は知っているが、鑑賞した体験はほとんどない。学校教育の中の文化伝承について、学校現場の努力を期待したいと思う。

【森口委員】

- 工芸技術を後世に伝えるために、文化財保護法に則って、日本伝統工芸展が開催されるようになって62年、今、日本の伝統工芸は大変な危機に直面している。日本国内での関心を高めるために、海外でなされる評価が重要な役割を果たしてきたことは確かで、今後もしっかりと計画をし、継続しなければならない。
- 2007年に、ロンドンで開催された「わざの美」展は、日本伝統工芸展の50年を総括するもので、現地で高い評価を受けることができた。それはすなわち、開催主体のブリティッシュ・ミュージアムの熱意そのものの反映であると言っても過言ではない。むろん充実した内容であることは第一要件であるが、日本のマスコミが主催者でなかったためだろうか、現地の重要な報道評論が全くと言っていいほど日本に伝えられなかったことは残念至極であった。
- 日本文化の特色は多様性にある。歴史的には、社会のあらゆる階層が各々の文化を持ち、誇りあうことができる、稀な風土があったのだが、今その点での多様性も、単一化した価値観に席卷され、消滅の危機にある。新しい「日本の美」の展開を進めるに当たって、この点に留意されたい。
- 危機に瀕している伝統工芸技術に関するアーカイブスを作り、様々な資料、道具や用具を収集・保存し、完成品としての工芸品の収集と並行させねばならない。伝統工芸技術は、地球環境保全に欠くべからざる循環思想を内包するものであることから、しっかりと保存していかなくてはならない。

【幸田委員】

- 今、世界中で日本の漫画をはじめとする、いわゆるサブカルチャーの評価が高まっており、各国でクールジャパンなど、日本文化への関心が急増してきていることを実感している。このタイミングで、日本のソフトパワーを充実させることは、平和外交、そして地方創生にも資するものである。世界で出ている日本びいきの芽というのは、それぞれがまだ点在していて、やっと線になりかけていた感じがあるので、一気に面にしていく、とてもいいタイミングだ。その意味でも、「日本博」はとてもいい提案だと思う。
- 企業経営に携わる者の感覚としては、日本の文化予算はこれだけなのか、という思いもあるが、財政の現状を考えると厳しいものもあり、「案内人」の存在が重要なと同時に、広く国民を巻き込むということの両方が大事だと思う。国民全てに参加意識を持ってもらうためにも、検証すべき点はあるものの、例えば、クラウドファンディングのような形もあるのではないかな。資金的な面の方法論を見出せないか。

【林委員】

- 文学は、影響力は狭いが深いものを与えることができる。ぜひ、第二の村上春樹さんを探すプロジェクトをお願いしたい。
- また、文化庁から、毎年文学作品の翻訳が出ているが、なぜこの作品なのか、私個人としては不思議に思うところがある。翻訳は1冊300万ほどかかっており、素晴らしい翻訳者がいなければならないので相当お金がかかるが、今、純文学にかかわる素晴らしい方がいるので、少しお金をかけて集中的にやっていただきたい。

各委員による意見交換終了後、河井総理大臣補佐官、馳文部科学大臣及び安倍総理大臣から、以下のとおりコメントがあった。

【河井総理大臣補佐官】

- 今回、内閣総理大臣補佐官を拝命し、文化外交の担当となった。
- 冒頭の津川座長の発言に全く同意する。縄文以来の長い歴史と伝統に培われた日本の素晴らしい文化の発信、特に海外に対しての発信がまだまだ十分ではない、
- これまで、近隣諸国に、政治経済だけでなく、文化の発信でも、日本が決定的に押されている状況をずっと見てきて、大変悔しい思いをしてきた。今回、委員の先生方の御意見をしっかりと伺って、いいものを一緒に作り上げていきたい。

【馳文部科学大臣】

- 私は、学生時代、平安和歌文学を専攻していた。古今和歌集の冒頭の仮名序に、「やまとうたは、人の心を種として、万の言の葉とぞなれりける」という文章がある。人の心とは何ぞや、というのは、まさしく我々日本人の美意識であり、人生観であり、自然観であると思っている。したがって、この懇談会で「日本の美」とは何ぞや、という包括的な、概念的な議論をしながらも、それをどのように発信していくかということがポイントになってくるのではないか。民間等を巻き込みながら、2020年に向けた流れのある今だからこそ、未来に向けて発信すべき「日本の美」、それをより具体的にどう表現していくか、その表現の形も含めて、この懇談会で取りまとめていくことができればよいと思う。

【安倍総理大臣】

- このプロジェクトの目的は、文化の力をより一層強化し、それを日本のソフトパワーとして活用していくということ。
- 一昨年、フランスのオランド大統領が国賓として来日した際、ベルサイユ宮殿風の東京の迎賓館にお招きした。ベルサイユ宮殿風であっても、中の細工は、日本の技術や工芸技術の粋を集めてつくっており、オランド大統領もそれに気づいて、この技術は素晴らしいということ、随分褒めていた。
- 先週は、純和風の京都の迎賓館に、フランスの首相をお招きした。そこでは、非常にシンプルだと感心していた。このシンプルさの中で、美しさを究めていることが「日本の美」であり、この日本の美しさをもっと外へ出してもらいたいと言っており、まさに文化の力というものを感じた。
- また、今年、メルケル首相が日本に来たときには美術館へ行った。そこの一番の展示物は、柴田勝家が、城が墮ちる寸前にお市の方と二人でお茶を飲んだといわれる素晴らしい井戸茶わんであった。その説明をしたところ、非常に感動されていた。

つまり、死ぬかもしれない前の日にお茶会を二人だけで開いて、初めて信長からももらったお茶わんを使った。かつ、それに対して日本人が価値を見出しているということに大変感心されていた。日本の文化は、歴史の持つストーリーも一緒に合わされれば、相当の力になっていくと思う。

- 津川座長からも大きな宿題をいただいた。これは予算措置もあるので、なかなか大変な部分もある。フランス等々と比べて文化に対する予算の配分が非常に小さいということもよく認識しながらも、配分比率を変えるのは至難のわざであるので、予算も大切だが、アイデアでも勝負をしていきたいと思うので、さまざまなアイデアを出していただきたい。
- 翻訳にお金がかかるという話があったが、翻訳しないと伝わらないわけであり、すぐれた翻訳者が必要だろうということも改めて認識をし、そういう面の支援も必要なかと思った。
- また、子供たちに対する語学については、教育再生実行会議で一つの大きな方向が掲げられており、かなり早い段階から英語教育を行うことや、TOEFLを活用していくということ等についても一つの方向が出されている。グローバル人材を育てていくという方向性の中で、今後、強化をしていきたいと思う。
- 懇談会の回数についても少し少ないという御指摘もあったので、それも踏まえて、しっかりとした議論がいただけるような懇談会にしていきたい。成果物を出していただき、それを政治の場にいる者が実行していくということで、成果を出していきたい。

5. 閉会

最後に、世耕内閣官房副長官より、次回日程等について以下のとおり説明があり、閉会となった。

- 次回は、今日の意見交換や御指摘の結果を踏まえ、さらに論点を掘り下げて、御議論をいただくこととしたい。また、本日、指摘いただいた点に関して、政府としてどう考えているのかを返していきたい。
- 具体的な開催日程等については、後日、事務局より調整をする。
- 懇談会終了後、運営要領に基づいて、内閣官房のHPに議事要旨を公開する。

(了)